



～文化の風が吹くまち ちくしの～

文化薫道



◆其の七十三

ふつかいち すいうん
二日市と水運

西鉄二日市駅の西側では、博多湾に向かって流れる高尾川と鷺田川(さぎたがわ)が合流しています。この辺りは、かつて水運として利用されていたようで、今では入舟と呼称されています。

江戸時代初め頃の福岡藩では、朝倉方面の年貢米などを福岡城下まで運ぶために人力や馬を使ってきましたが、運べる量が少ないことから、運河を造る計画が考えられました。

計画は二度実施されました。一度目は、博多から朝倉間まで計画され、寛文3(1663)年に博多から二日市間までは開通したようです。ただし、水量不足や度重なる改修の費用などが原因で翌年には運航が廃止されたことが記録に残っています。

二度目は、博多から二日市間へ



運河の名残(橋口橋)

計画を縮小し、寛延4(1751)年に開通し、宝暦13(1763)年まで機能していたようです。その廃止の理由はやはり水量が少なく、泥がこびり付くなど運航に支障が大きかったとされています。

ごく短期間の運用でしたが、物流を担う重要な拠点として「二日市」が選ばれたのは、日田と博多を結ぶ街道とともに繁栄したことと同時に、河川の合流地点という立地にあったと言えるでしょう。

陸路と水路両方の中継地であったことが、「入舟」名を物語っています。

図 文化財課



筑紫野市フェイスブック

<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター

<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市LINE公式アカウント

<https://lin.ee/6X9wMoy>